

会員各位

ASDO・JSCA 東京共催 技術研修会のお知らせ

シリーズ「これからの建築構造工学を考える」

第4回 基準と法規制

講師：東京大学名誉教授 日本大学客員教授 神田順先生

共催 一社) 東京構造設計事務所協会 (ASDO)
一社) 日本建築構造技術者協会 (JSCA 東京)

コロナ禍の中で、鳴りを潜めていた街に第6波を警戒しながらも、少しずつ賑わいが戻ってきているようです。皆様におかれましては、その後もますますお元気でお過ごしのことと、お慶び申し上げます。

新型コロナの影響から一年半の空白期間を置きながら、皆様のご協力により2年以上に渡るシリーズ「これからの建築構造工学を考える」も、今回で最終回を迎えることになりました。これまでの3回は、神田先生の専門分野である確率論に基づく「設計荷重論」、「限界状態設計法」、「総費用最小化」について興味深いお話をお聞きしました。

シリーズ最後の今回は、サブテーマを「基準と法規制」として、お話をして頂きます。私達構造技術者がこの問題に関して最初に思い起こす「新耐震設計法」が、基本的な枠組みはそのままに、新たな規定を増やしながらか施行後40年が経っています。これらの規基準が、今後どのように社会の変化に即応した改訂がなされるべきかについて、皆様とご一緒に考える機会にしたいと思います。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

神田先生よりのメッセージ

シリーズ最後の第4回目では、「基準と法規制」をテーマにお話しします。建築構造技術者として、社会の中でどのような役割を果たし、どのような姿勢で臨むことが望ましいかを、私なりにまとめてみたいと考え、4つのトピックスで紹介します。

- 1) イタリアン・セオリーについては、建築法規制について考えていて巡り合ったイタリアの現代哲学者たちの思考の紹介です。現代社会にあつて国の定める法とは何かを考えさせられます。
- 2) 構造技術者の倫理と責任については、具体的な例を挙げて工学倫理について考えてみます。建築主のためとは言いながらも、社会のためでもなければならぬ。一方で、法的責任を果たすことがどこまで専門家としての責任を果たしたことになるか、一般解を導くことは難しいです。
- 3) 建築基本法については、戦後生まれた建築基準法がさまざまな限界に差し掛かっている中で、2003年に議論を始めた基本法制定のねらいについて、社会と構造技術者の関係がみえやすくなるという視点で説明します。
- 4) 3回にわたってお話しした限界状態設計法とその活用については、実はリスク・マネジメントにおけるコミュニケーションとしての意味として理解してもらおうとよいと思います。そのことを確認してこのシリーズをまとめとします。

テーマ：シリーズ「これからの建築構造工学を考える」

第4回「基準と法規制」

日時：2021年12月7日（火）18時00分～

受付：17時45分より（対面会場）

場所：オンライン配信（ZOOMもしくは、YouTube ライブ配信）

配信、対面会場：A-Forum 〒101-0062 千代田区神田駿河台 1-5-5 レモンパート II ビル 5F

プログラム：司会 市村隆幸（㈱親交設計、ASDO 副会長）

18:00～18:05 趣旨説明 金田勝徳（㈱構造計画プラス・ワン）

18:05～19:35 講演 東京大学名誉教授 神田順先生

19:35～20:00 質疑応答

20:10～21:30 意見交換会（懇談会）：対面、希望者のみ

参加費 講演：無料

意見交換会：実費による。レストランで開催予定

その他：

開催時期の新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて講演、意見交換会への対面参加を10名程度募集いたします。参加希望者は、申込時にお申し出ください。参加者へは別途お知らせいたします。

なおオンラインイベントのため機材や通信トラブルが生じた場合、中断することもございます。ご了承ください。

本研修会は、建築 CPD 情報提供制度 及び JSCA 建築構造士登録更新のための評価点 の対象ではありません。

参加希望の方は、下記申込みフォームよりお申し込み下さい。

後日 11/29 以降にお申し込みされたメールアドレスに配信 URL をお知らせいたします。

→ <https://forms.gle/DKuZ8waQ3hSvPwhAA>



申込締切日 2021年12月2日（木）

ご不明な点などございましたら、問合せ先 e-mail:kensyu@asdo.or.jp までご連絡ください。

（ASDO 事務局へのお電話による直接のお問合せはお控えください。）

追加の連絡事項などがある場合は、メールおよび ASDO ホームページ等でお知らせいたします。